

令和元年5月28日現在

機関番号：12501

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2018

課題番号：16K15952

研究課題名（和文）看護できる身体づくり - 高齢者ケアにおける看護情報をつかむための身体活用プロセス

研究課題名（英文）Embodiment that can be nursing: A body utilization process for grasping nursing information in elderly care

研究代表者

正木 治恵（MASAKI, HARUE）

千葉大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：90190339

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：看護できる身体づくりという視点から、看護学習者の身体観、身体の論理を土台にした教育の試行とその効果、ならびに看護情報を身体で捉えながら実践を展開する身体活用プロセスを明らかにした。本研究の外界とのやり取りに着目して試行した教育は、看護学習者にとって看護師としての自分の身体のあり方や見方に変化を及ぼすことが期待できる。また、熟練看護師は高齢者の身体や状況に応じて自らの身体を活用することで、高齢者ケアに必要な看護情報をつかみ、ケアを展開させていることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、embodimentに至る「気づき」のプロセスに焦点をおいた教育方法と、人の生活や生き様といった包括的な対象理解を必要とする老年看護領域における熟練看護師の身体活用プロセスを明らかにした。本研究成果である身体の論理を土台にした“看護できる身体（からだ）づくり”は、これまでの看護教育で展開されてきた「看護技術演習」とは一線を画し、身体的思考という実践する主体の側から捉えた体系論の構築を可能とする。

研究成果の概要（英文）：The study aimed to explore the awareness of the body held by nursing students, and to clarify the effect of trial of education based on the logic of the body from the viewpoint of creating a body that can be nursing, and the body utilization process which develops practice while grasping the nursing information with the body. The education that was tried by focusing on the interaction with the outside world in this study can be expected to change the way and views of one's own body as a nurse for nursing learners. Moreover, it became clear that the skilled nurse grasps the nursing information necessary for the care of the elderly people and develops the care by utilizing his / her body according to the body and the situation of the elderly.

研究分野：高齢者看護

キーワード：高齢者ケア 身体化 看護教育 embodiment

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

認知症高齢者をはじめ高齢者ケアにおいては、言語情報のみならず観察や感覚を通じた非言語的情報に基づく看護アセスメントが必要となる。それらは看護師自身の手で触れることによって観察できるというように、身体を活用するプロセスがある。通常これらは熟練看護師に修得されている技術であり、経験に基づき育成されてきた実践能力といえる。

身体の生物学的な解明がより詳細に行われていく現代医療では、機器を使った採血などの検査数値やレントゲン写真などはっきり数値として出るようなものが重視されるが、日本古来の伝統医学では、体を内側から整えるという哲学のもと、環境とそれに対する反応を含む人間の全体像を表す。このような全体的・包括的な捉え方は、専門的知識として提示されてはいるものの、実践する主体の側からは捉えられてこなかった。人の生活や生き様といった包括的な理解を必要とする老年看護領域では、対象を全体的・包括的に捉えながら実践していく能力が特に必要と考えられるにも関わらず、いまだ老年看護特有の実践論は確立されているとは言い難い。

### 2. 研究の目的

#### (1) 研究1: 身体づくりプロジェクト

看護できる身体づくりという視点から、身体の論理を土台にした教育の試行とその効果、ならびに看護情報を身体で捉えながら実践を展開する身体活用プロセスを明らかにする。

#### (2) 研究2: 熟練看護師の身体活用プロセス

看護ケアを展開していく際の循環的な過程を捉えながら、特に身体の動作という視点から観察、記録し、その記録動作を研究者間で討議することを通して、看護情報をつかむための身体活用のプロセスを分析する。本研究は、高齢者ケアにおける看護情報をつかむための熟練看護師の身体活用のプロセスを明らかにする。

### 3. 研究の方法

#### (1) 研究1: 身体づくりプロジェクト

看護系大学学生と大学院生を対象にした、「ボディワークによる外界とのやり取りの気づきを促す講義・演習」(プログラム A)と「食による外界とのやり取りの気づきを促す講義」(プログラム B)との、2つのプログラムで構成した。

研究対象者は看護系大学学生と大学院生であり、プログラム群と対照群が均等な人数割合になるよう割り付けた。プログラム群に対し、プログラム A および B を提供し、プログラム前中後計3回のフォーカスグループインタビューならびに「からだに関するアンケート」調査を実施した。併せて、プログラム B の前後で2週間ずつ食事内容や体温・体重・睡眠時間・主観的なからだの調子など基礎的な身体状態に関する「日々の記録」も記載してもらった。一方、対照群に対してはプログラムを提供せず、プログラム群と同じタイミングでのフォーカスグループインタビュー、「からだに関するアンケート」調査、「日々の記録」を実施した。

データ収集期間は2017年10月～2018年2月であった。

#### (2) 研究2: 熟練看護師の身体活用プロセス

##### 調査内容

高齢者ケアの熟練看護師を対象に、参加観察の訓練を受けた研究者がその実践を観察・記録する。熟練看護師の看護実践を参加観察・録画・インタビューすることを通して、熟練看護師がみずからの身体(手, 眼, 耳, 等)を使い、ケアを提供しながらヘルスアセスメントしていくプロセス

を捉える．

研究対象者

高齢者ケアの熟練看護師 5 名(A 病院 3 名,B 病院 2 名)とその看護師が受け持つ入院高齢患者 (65 歳以上)6 名(A 病院 4 名,B 病院 2 名)

データ収集期間

A 病院(高齢者ケアを専門とする急性期病院)平成 28 年 11 月~平成 29 年 3 月

B 病院(地域の基幹病院かつ特定機能病院)平成 31 年 3 月

倫理的配慮

研究者の所属施設ならびに各データ収集施設倫理審査委員会の承認を得て実施した．

#### 4．研究成果

##### (1) 研究 1：身体づくりプロジェクト

プログラム受講前のインタビューデータを分析した ,看護学習者の身体観について報告する . 研究対象者は ,看護基礎教育課程に所属する大学生 7 名と大学院博士および修士課程に所属する看護師資格を持つ大学院生 13 名の計 20 名であった .プログラム受講前 ,20 名の対象者を 4~5 名ずつのグループに分け ,フォーカスグループインタビューを実施した .インタビュー内容を逐語録に起こし ,質的帰納的に分析した結果 ,389 コードから ,看護学習者の身体観として 7 つのカテゴリを導出した .

得られたカテゴリは ,【看護師へと作り上げる身体】【状況依存的に感覚が高まる身体】【相手の動きや呼吸のリズムに同調する身体】【アセスメントや実践の道具として活用される身体】【対人関係の中で外見となる身体】【環境に呼応する身体】【看護師として身体化された身体】であった .

結果より ,看護学習者は自らの身体を ,【看護師へと作り上げる身体】であると捉えていた . 学習や実践を担えるような身体へと自ら訓練や調整を繰り返し ,やがてその身体活用の経験や獲得した知識は看護学習者の身体へと内在化した .すなわち【看護師として身体化された身体】となった .また ,看護実践の場面では ,患者の【アセスメントやケアの道具として活用される身体】として捉えており ,臨床現場に存在している状況依存性 ,相手の動きやリズム ,ケア対象者との関係性次第で ,複数の身体観が併存していた .また ,看護場面だけでなく私生活を含めたこれまでの経験を通して ,環境の変化に応じて人の身体のあり方は物理的にも反応としても変化する【環境に呼応する身体】であると捉えていた .このように ,看護学習者の身体観は ,実習や交代制勤務など特有の生活規制や専門的知識・技術に馴染むように作り上げられ ,生活体験や実践知が内在化し 臨床現場の複数の文脈に沿って多彩に見出されていると考えられる .したがって ,看護学習者にとって ,環境すなわち外界とのやり取りは看護師としての自分の身体そのもののあり方や見方を転じさせると考えられる .つまり ,本研究の外界とのやり取りに着目した身体づくりプロジェクトは ,対象者らの看護師としての自分の身体のあり方や見方に変化を及ぼすことが期待できる .

今後は ,プログラム受講後に得られたインタビューデータ ,アンケートおよび日々の記録のデータと併せて分析し ,学術論文に投稿予定である .

##### (2) 研究 2：熟練看護師の身体活用プロセス

平成 28 年度に A 病院で収集したデータについて ,平成 29 年度中に計 3 回 ,看護学と体育学の共同研究者による検討会議を行った .討議後 ,看護師の身体活用 と 看護師がつかんだ看

看護情報 に関する内容を抽出した。結果、高齢者ケアにおける熟練看護師の看護情報をつかむための身体活用プロセスには、触ること、歩くこと、姿勢、声のトーンなどが内在しており、熟練看護師は高齢者の身体や状況に応じたそれらの身体活用を通して、高齢者ケアに必要な看護情報をつかみ、ケアを展開させていることが明らかとなった。その結果の一部をまとめ、平成 30 年 3 月、第 10 回文化看護学会にて発表した。

平成 30 年度は、引き続き、収集データ分析の方向性確認等について、看護学と体育学の共同研究者による検討会議を行い、論文にまとめるにあたって補完することが必要なデータを B 病院で収集した。

A 病院と B 病院において収集したデータを分析し、論文公表の準備中である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

山崎 由利亜、正木 治恵、高橋 良幸、小池 潤、錢 淑君、田中 愛、瀧澤 文雄、看護学習者の身体観 - 看護基礎教育課程の学生と博士課程の学生へのインタビューから、千葉大学大学院看護学研究科紀要、査読有、第 41 号、2019、45 - 55、DOI なし

〔学会発表〕(計 2 件)

山下 裕紀、正木 治恵、高橋 良幸、山崎 由利亜、小池 潤、瀧澤 文雄、田中 愛、高齢者ケアにおける熟練看護師の看護情報をつかむための身体活用プロセス、文化看護学会、2018 年 3 月 18 日、千葉(日本)

戸田 由利亜、正木 治恵、Awareness of the body for nursing practice: From the interview to student nurses and doctoral students in nursing, 20th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2017 年 3 月 9 日~3 月 10 日、リーガルリバーサイドホテル、香港(中国)

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：瀧澤 文雄

ローマ字氏名：TAKIZAWA, fumio

所属研究機関名：千葉大学

部局名：教育学部

職名：教授

研究者番号(8桁): 50114294

研究分担者氏名：錢 淑君

ローマ字氏名：SEN, shukukun

所属研究機関名：千葉大学

部局名：大学院看護学研究科

職名：准教授

研究者番号(8桁): 50438321

研究分担者氏名：山崎 由利亜

ローマ字氏名：YAMASAKI, yuria

所属研究機関名：千葉大学

部局名：大学院看護学研究科

職名：助教

研究者番号(8桁): 50759107

研究分担者氏名：高橋 良幸

ローマ字氏名：TAKAHISHI, yoshiyuki

所属研究機関名：東邦大学

部局名：健康科学部

職名：准教授

研究者番号(8桁): 30400815

研究分担者氏名：田中 愛

ローマ字氏名：TANAKA, ai

所属研究機関名：武蔵大学

部局名：人文学部

職名：准教授

研究者番号(8桁): 10508534

研究分担者氏名：山下 裕紀

ローマ字氏名：YAMASHITA, yuki

所属研究機関名：関西医科大学

部局名：看護学部

職名：准教授

研究者番号(8桁): 40326319

## (2)研究協力者

研究協力者氏名：小池 潤

ローマ字氏名：KOIKE, jun

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。